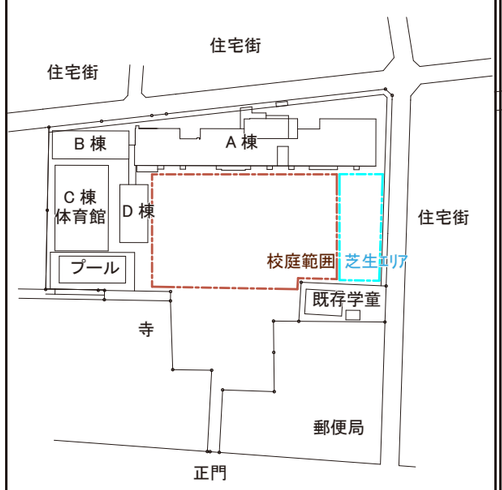
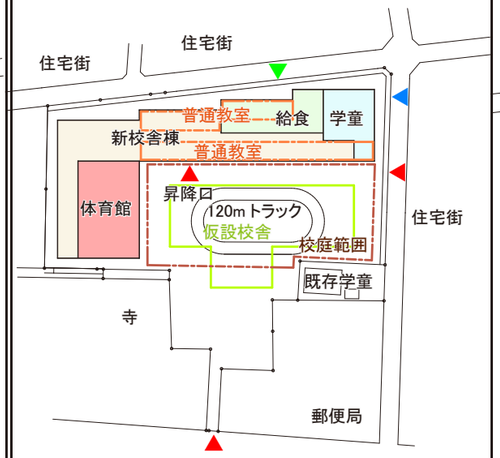
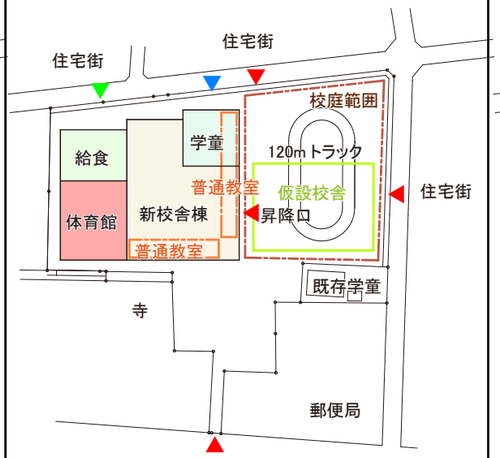
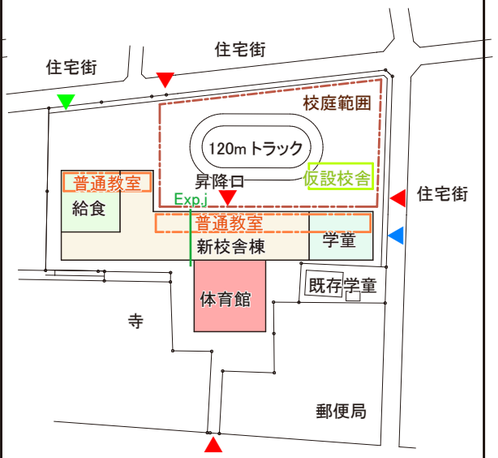
校舎配置案ごとの特徴比較

資料６

	既存校舎	A案　北校舎案	B案　東校舎案	C案　西校舎案	D案　南校舎案
					
	建築面積：約3,000m² 校庭面積：約3,800m²(芝生ｴﾘｱ600m²含む)	建築面積：約4,000m² 校庭面積：約3,400m²	建築面積：約3,600m² 校庭面積：約4,000m²	建築面積：約3,600m² 校庭面積：約3,500m²	建築面積：約3,600m² 校庭面積：約3,900m²
計画の特徴		・南側校庭・昇降口 ・既存配置とほぼ同じ配置のため近隣への変化は少ない ・教室棟は3層まで可能	・西側校庭・昇降口 ・教室棟の4層が可能	・東側校庭・昇降口 ・教室棟の4層が可能	・北側校庭・昇降口 ・教室棟の4層が可能 ・仮設校舎の規模が小さい。
評価項目	普通教室の配置	南、北側配置（2～3階配置）	東、西側配置（2～4階配置）	南、東側配置（2～4階配置）	北側配置（2～4階配置）
	校庭配置・面積	南側配置で校庭面積は既存より大きい	西側配置で校庭面積は既存より大きい	東側配置で校庭面積は既存より大きい	北側配置で校庭面積は既存より大きい
	既存学童との連携	離れているため連携が図りづらい	近いため連携が図りやすい	離れているため連携が図りづらい	近いため連携が図りやすい
	近隣への影響	既存とほぼ同じ配置のため変化が小さい	既存と配置が異なるため変化が大きい	既存と配置が異なるため変化が大きい	既存と配置が異なるため変化が大きい
	移動動線・距離	各室が分散した配置のため、移動動線が長くなる（既存建物と同様の配置）	校舎が東側にコンパクトにまとまるため移動動線が短くなる	校舎が西側にコンパクトにまとまるため移動動線が短くなる	各室が分散した配置のため、移動動線が長くなる
	仮設計画	全面仮設校舎となる	一部仮設校舎（A棟分）となる	一部仮設校舎（A棟半分、B~D棟分）となる	一部仮設校舎（D棟分）となる
	工程と工期	全面仮設校舎を建設するため工期が必要	既存校舎の解体が二期になるため工期が必要	既存校舎の解体が二期になり、A棟の部分解体、改修があるため工期が必要	新校舎の建設が二期工事となるため工期が最も長くなる
	コスト	全面仮設校舎となるためコストは比較的高い	一部、既存校舎を利用でできるため、コストは比較的低い	仮設校舎の面積が小さいが、既存校舎の外壁改修があるためコストは比較的高い	仮設校舎の面積が小さいためコストは最も低い